



2023年12月12日(火)

～12月の聖句～

わたしは主のはしためです。

お言葉どおり、この身に成りますように。

— ルカによる福音書 1章38節 —

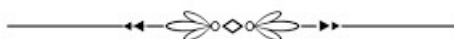
静修会「絆を深める」



11月24日(金) サレジオ会より関谷義樹神父様をお招きし、静修会を開催しました。中学3年間で振り返る総まとめとして、「絆を深める」をテーマに、清泉が大切にしている“隣人愛”について深く学びました。体験学習では、「協力する」とは、仲間の状況を見て、自分を「砕いて与える」ということを実体験しました。例えば、自分のパズルが出来上がってじっと待つ生徒、出来なくて困っている生徒、仲間を手伝おうとする生徒など、初めは様々な姿が見られましたが、完成させるためには自分のパズルを思い切って差し出すこと、それが協力することだと気づくことができました。また描画テストでは、風景画を描いて自分の心の内と存在を再認識し、かけがえのない自分を大切にすることで、他者も同じように価値あるものとして見ることができると学びました。そしてマザーテレサの「愛の反対は無関心」という言葉も引用され、“隣人愛”とは自分の隣人が誰かではなく、見て共感して近寄り与えることで、「自分が隣人になる」ということをあらためて知りました。関谷神父様の講話はとてもわかりやすく、時にユーモラスで、生徒たちは一瞬でお話の中に夢中になっていました。ギターで弾き語る姿は某アーティストのようにも見え、生徒たちにとって初めての曲もあつという間に歌えるように導いてくださいました。



最後に、御聖堂で心に沁みるミサに預かりました。静修会委員を務めてくれた8人の生徒により、本格的なミサを無事に行うことができ、よい経験ができたと思います。生徒たちが声高らかに歌う聖歌にも感動しました。お説教はロウソクの紙芝居、この一日を過ごした生徒たちだからこそ、自分の中の色々な思いと向き合いながら聞くことができたのではないのでしょうか、皆とても穏やかな表情をしていました。以下は、ミサの中で祈られた共同祈願です。



神様、私たちは多くの人たちに支えられて毎日の中学校生活を送っています。特に、家族にはお弁当を作ってもらったり、悩みを聞いてもらったり、駅まで送ってもらったりとたくさん助けられています。それでも疲れた時や、学校で嫌なことがあった日は、いやな態度をとってしまいます。これからは、周りに迷惑をかけない自分になりたいです。3月にはオーストラリア研修があります。家族が支えてくれることのありがたさを理解して、日々の感謝を忘れないように過ごせるよう、私たちを導いてください。

ウクライナ戦争が始まって一年経ち、イスラエル戦争も始まり、市民の方々が沢山苦しみ、不安な日々を送っていらっしゃいます。1日も早く戦争によって苦しんでいる方々が、元の生活に戻り、笑って過ごせるようになりますように。そして私たちは、そのように苦しんでいる方々がこの世界にいることを忘れず、隣人となり、祈りを通して支えとなることができますよう、神様、私たちを導いてください。

私たち13期生は、このクラスメイトと過ごしてから3年を迎えようとしています。運動会、清泉祭、合唱コンクールなどを通して、私たちは互いにぶつかり合いながらも、抵抗するのではなく、互いに相手を理解しようとする心が大切であることを学んできました。そして、一人一人が心から励むことが出来れば、私たちは何があっても乗り越えられるという自信がついた気がしました。中学校生活も残り4ヶ月をきりました。神様、もう二度と戻らない残りわずかの中学校生活の中で、私たちが真実に、そして一人一

人が過去の自分と向き合えるようにお祈りください。また、選ばれて今共にある私たちが、自分と同じようにクラスメイトを大切に、信頼できる仲間となっていくことができますように、わたしたちの心を強くしてください。

中学3年暁の星組のために祈ります。

中学第13期33名の担任になり、8か月が経ちました。教師として教科を教えるだけでなく、担任として学級を支えることの責任と喜びとやりがいを日々感じています。生徒たちも毎日の生活のあらゆる場面で、自分に挑戦し、葛藤を抱え、友達との関わりの中で成長し続けています。一人一人の良さが埋もれることなく輝けるよう、担任として見守り、時折声をかけながら、笑顔で支え続けたいと思います。同じ船に乗り合わせた33人が、お互いのことを思いやって広く心を通わせ、共に努力し高め合える良き仲間でありますように。

主よ、私たちの祈りを聞き入れてください。

